（午後３時15分　再開）

○議長（中西峰雄君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番５、３番　富岡君。

〔３番（富岡清彦君）登壇〕

○３番（富岡清彦君）一般質問を行います。私は「市政の主人公は市民」、この立場から３項目について質問します。

最初の質問は、先月30日投票で行われた衆議院議員選挙の結果、長く続いた自民党政治、ここ10年間の自・公政治は多くの国民の支持を失い、自・公政権は大敗をいたしました。これにかわり、大勝した民主党を中心とした政権が誕生します。このことは国政史上、歴史的な変化と言えます。そこで質問は、今度の総選挙の結果について市長の所見を伺います。

第二の質問は、自民党中心の国政から、民主党中心の国政にかわった。このことで、橋本市として何を期待しますか。また、要求したい重点課題について伺います。

２項目めの質問は、「ふれあいサロン」の補助金について伺います。高齢化社会の到来の中で、自治体はどのような施策を実施して、高齢者の皆さんが健康で長生きできる環境をつくるか、当局の重要課題であると認識をいたします。その一つに、ボランティアの方々による「ふれあいサロン」事業が、現在、市内27箇所で実施されています。私は、他の自治体と比較しても、橋本市のボランティアの皆さんによる「ふれあいサロン」事業は、大変すぐれたものと考えます。参加者の方から、「ふれあいサロンに参加して、楽しいひとときを過ごさせていただいています。」「私は、ふれあいサロンに参加して生きがいを見出しました。」と、このような生の声を聞くとき、「ふれあいサロン」が市内至るところで多数実施され、さらに事業内容も発展することを願う一人です。

そこで、第１の質問は、「ふれあいサロン」事業に対する当局の認識を伺います。

第２の質問は、現在、市内で実施している「ふれあいサロン」事業に対する市の補助金制度は不公平との声が聞こえてきます。市内27箇所で事業が実施されていますが、各サロン一律の補助金が支出されていることです。60名の会員のサロンも、10人の会員のサロンも同額の補助金なんです。特に会員の多いサロンの関係者の方から不満の声があるんです。そこで質問は、どのような基準に基づいて補助金を支出しているのか。また、当局はこのままで良しと考えているのか伺います。

第３の質問は、社会はますます「ふれあいサロン」の発展・育成を求めています。不公平感をなくし、だれもが納得できる補助金制度にすべく、当局の見直し案を伺います。

３項目めの質問は、橋本市市営住宅ストック総合活用計画の関連で伺います。第１の質問は、ストック総合活用計画では、現市営住宅の戸数を４割廃止し、550戸にするとするものです。現在の社会現象は、低廉な家賃の住宅を求める国民・市民は増加していることと矛盾すると考えるが、計画を見直す考えはないか伺います。

第２の質問は、橋本市営住宅ストック総合活用計画の進捗状況について伺います。

第３の質問は、真土住宅の計画について伺います。また、１回目の入居者説明会を傍聴し、入居者の声を聞き、計画の見直しが必要

ではないかと強く感じましたが、今後どのように計画を進めるのかを伺い、１回目の質問を終わります。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君） 富岡議員のご質問について、お答えをいたします。

今回の選挙結果でございますが、ご承知のように、民主党が単独過半数を大幅に上回る308議席を獲得し､政権担当をせられたところでございます。総選挙で野党が単独で過半数を得て政権が交代するのは、戦後はじめてのことと認識をしてございます。これは民意の大きなうねりの中で、国民の皆さんが、選挙前の政権政党への不信と､「とにかく一度政治を変えてみたい」という思いがいかに深いかを物語る結果であろうかと存じます。

新しい国政に対する期待ですが、いろいろある中で、昨年のリーマンショック以降、低迷し続ける経済の立て直しや、子育て・医療など福祉部門の政策に期待するところでございます。政権与党の民主党は、国家戦略局の設置によって、首相直属のそういう機関で国の基本方針を、あるいは予算編成に、今までの官主導であったものが政治主導で今後進めていきたいという、非常に大きな改革があるようでございます。

しかしながら、反面、私としましては、都市基盤の基幹道路等の整備について、正直言って、新聞紙上を見る限りにおいて若干の不安がございます。と申しますのは、橋本市の企業誘致をはじめとする商工発展のための国道371号橋本バイパス､あるいは京奈和自動車道が橋本区間は開通しておるものの、これの効果というのは本当に微々たるものであります。やはり京都から和歌山まで速やかに開通することにおいて、やはり高野山のふもとである橋本市が大きな飛躍をしていくのではないかと、いつも夢見ておるところでございます。

こうしたことで、現在市を挙げて取り組んでいることはご承知のとおりでございますが、今後も本市の最重要施策として、政権政党であります民主党へ向けて、国、県など関係機関に強く要望してまいりたいと考えておりますので、それぞれ議員の皆さんのお力添えをいただきまして、すばらしい橋本市のまちづくりに努力してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、残余の件につきましては、担当参与にお答えをいたさせます。

○議長（中西峰雄君） 健康福祉部長。

〔健康福祉部長（森本健二君）登壇〕

○健康福祉部長（森本健二君）「ふれあいサロン」の質問にお答えします。

橋本市の人口は、平成21年７月現在で６万8,207人、65歳以上の高齢者は１万5,689人となり、高齢化率も23％となりました。今後ますます高齢化が進んでいくことが予測されます。

ご質問のあった「ふれあいサロン」に対する市の考え方ですが､ふれあいサロン事業は、地域の高齢者が気楽に集い、交流を深め、地域の人たちとふれあいの輪を広げることで、閉じこもりや寝たきりを予防し、健康で生き生きとした生活を送れるように支援する事業です。

橋本市では、高齢者が要介護状態になることをできる限り予防する、介護予防事業の重要な事業の一つとして位置付けております。また､「高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるように」との願いは、市民だれもが持っている願いですが、このふれあいサロンはボランティアにより運営され、まさし

く地域ぐるみで取り組んでいただき、行政と地域が一体となり、地域高齢者の見守り支援としての役目を果たしていただいていると考えております。そのため、「地域の高齢者が歩いて行けるところにサロンを」を目標に地域の協力を得て、市内全域に数多くのサロンを開催する方向をめざしております。

次に、ふれあいサロンに対する補助金でございますが、橋本市では、助成金として支援しております。ふれあいサロン事業は、橋本市社会福祉協議会に委託しており、現時点での助成対象基準は、サロンに登録していただき、開催回数は月２回～週２回程度、開催時間は１回につき２時間程度から、参加人数は10人から30人程度としております。運営助成金については、１回当たりの助成金は昼食ありで5,000円、昼食なしで2,000円、会場使用料が必要な場合は１回1,000円としております。

助成金の見直しでございますが、ふれあいサロンの歴史は古く、平成12年頃から、地域で高齢者問題に熱心に活動されている方々がサロンを立ち上げ、橋本市として支援してまいりました。平成14年４月からは「地域ふれあいサロン実施要綱」を制定し、さらに事業に対する支援の充実を図りました。その長い経過の中で、状況に応じて助成基準を変えてまいりましたが、現在はサロン参加人数に対する補助ではなく、１つのサロンの活動に対する補助との考えで支援しております。しかし、平成20年度の実績において、１サロン年間参加者数においては、最高2,460人から最低186人、平均利用人数においては33人から８人と、格差が生じていることは事実であります。

このように、ふれあいサロン間の格差が広がり、市として支援のあり方を考え直さざるを得ない状況となってきており、現在、ふれあいサロンの運営スタッフの方々にアンケート調査を行うなど、見直しを検討しているところです。

いずれにしても、21年度において、これまでの実施したふれあいサロンの事業の実績・効果を検証し、かかわっていただきました方々からの声を集約しながら、「ふれあいサロンに行くことが生きがい」と言っていただけるよう、今後とも支援していく所存です。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

〔建設部長（樽井豪男君）登壇〕

○建設部長（樽井豪男君）橋本市営住宅ストック総合活用計画に関連しての、１点目のご質問でございますが、橋本市営住宅ストック総合活用計画は、平成20年度を初年度として、平成29年度までの10カ年を計画期間として策定いたしました。計画に基づいて本年度より具体的に事業化をしております。計画内容につきましては、５年ごとに定期見直しを行うものとしていますが、今後の事業進捗の状況を見ながら、必要な時期に検討してまいります。

２点目のストック総合活用計画の進捗状況でございますが、ストック総合活用計画での団地の位置付け別に、平成21年度の事業内容といたしまして、用途廃止団地の空き家、２団地４戸を平成22年度に除却する計画で、同団地の入居者の方に話をしています。

棟の集約を図る団地に位置付けております真土住宅につきましては、団地内での住み替えにより棟の集約をしていく計画で、本年度、住み替え用住宅の改修を設計すべく、関係入居者の方に対し説明会を開催しています。

個別改善、維持保全団地のうち、東家団地につきましては屋外改修工事を計画しており、工事発注の準備中であります。また、伏原第２団地、伏原第３団地、伏原第４団地、伏原第５団地と脇之田第２団地の一部につきましては、公共下水道接続工事を予定しており、

設計中であります。

３点目の真土住宅の計画についてのご質問でございますが、棟の集約を図る団地に位置付けております真土住宅につきましては、団地内での住み替えにより棟の集約をしていく計画で、本年度、住み替え用住戸の改修を設計すべく、関係入居者の方に対し説明会を開催しています。今後も説明会を重ね、理解を求めていきたいと考えています。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君、再質問ありますか。

３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） それでは再質問を行います。

まず１項目めの衆議院選挙の結果からでありますけれども、これは財政課長に伺いたいんですが、政権がかわることによって、何か収入減といいますか、心配されていることがあれば紹介ください。

○議長（中西峰雄君） 財政課長。

○財政課長（北山茂樹君） 突然答弁を求められましたので。一番気にしている点でございますけども、民主党がガソリン税の暫定税率を廃止するということで、従来から公約として掲げられております。もし暫定税率を廃止された場合、橋本市に対する影響といたしましては、自動車取得税交付金等、総額で約１億8,000万円ほどだったと、ちょっと資料を持ってないんですけど、１億8,000万円ほどの影響額が出たかと思います。暫定税率を廃止することによって、市に対してその交付金がなくなるということになりますので、一般財源として１億8,000万円程度の額が減少していくのではないかというようには懸念をしております。

民主党のことでございますので、地方財政を重視してくれてると思いますので、その点は何らかの形で補填はされると私は思っております。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） 何らかの措置を講じてくれるというふうに、私も切望いたします。

次に行きます。２項目めのふれあいサロン補助金について再質問をしたいと思います。

ふれあいサロンの意義について、当局から納得のいく答弁があったわけですけれども、ふれあいサロンに参加されている皆さんの声について、部長、聞かれていることがあれば紹介ください。

○議長（中西峰雄君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君） 具体的にはああ、こうという形では私の耳には入っていますが、総体的には今一つで、そこへ参加していろんな方とお話しできてお茶飲めて云々という形、通常的な話は聞こえてくるんです。それで、先ほども、最近特に地域の方から、今議員おただしのように、この補助金云々についてどうよ、人数云々も大小にかかわらず同じということについては、運営しにくいよというようなことも直接聞いたことがあります。

それと、ボランティアにつきましては、一番最初、立ち上げたときはやりたいよというような形の中で、地域のリーダーの方がおられて一緒にやられておるんですけども、次の後継者がなかなか育ってこないというような悩みも聞いております。

以上のようなことでございます。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） 私、演壇からも一部紹介したんですが、ふれあいサロンに参加することが生きがいとなっているという、直接お聞きしたんですが、この方の場合は、早くにご主人を亡くされて、まだ少し障がいを持たれていた子どもさんも不幸に亡くされると。非常に落ち込んだおひとり暮らしの状態にな

っていたんですけれども、お知り合いの方から街ッち箱ですか、ふれあいサロンを紹介されて、そこで歌を歌ったり、当然お話をしたりとか、いろんな多種多様な活動をされているサロンと出会って、本当に生きがいになってるんですという声、直接聞くことができまして、本当にこのふれあいサロンというのは、一人の人間を変えるというのか、特に高齢者が、本当に元気に暮らしていける大きな支えになっているんだなというのを実感したんです。

何を言いたいかと言えば、部長も答弁で言ってくれたんですけれども、このふれあいサロンが、本当に高齢者の方が歩いて行けるような場所にと言えば、もう今の何倍と数の上でもできてきて、また内容についても広がっていくということが、すごく大事なことかなというふうに強く感じております。そこの点で、今、部長言ってくれたんですが、これ、27もサロンが市内にあるわけですけれども、会員数等で最大で何名、最小のところで何名というのわかりますか。この点伺います。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）ちょっと済いません、会員ではうちのほう、ちょっと今のところ資料を持ってないので、参加者数ということでかえてご報告させていただきますと、これは20年の実績なんですけども、その中で一番多いところが、これは年間ですけども2,460人やと思います。それで、一番少ないところは186名となっております。それだけの格差が、先ほど言われたように格差が出ております。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）そこで、ふれあいサロンの要はメインの事業と言いますか、給食、いわゆる食事を提供してというところが多いんですけれども、問題なのはこの場合なんですよ。先ほど部長のお話でわかったんですが、最高は30人だと。食事についてもね。最低で10人だということでしたが、１回の食事をした場合、5,000円の補助金が出るという、ここが問題なんです。単純計算でも、10人のところですと、言わば食材に一人頭500円使いますよね。30人ですとその３分の１になってくるわけですね。僕の聞いているのでは、まだ40人とか集まっているということも聞いているんです。そうしますと、８倍とかの開きがあるんですけれども、これはいかにも問題ではないかというふうに思うんですが、問題意識は持たれてますか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）私が担当のほうから聞いている話ですと、食事については、基本的には自己負担ということを聞かせていただいております。ですから、この5,000円でその食事、例えば弁当をつくったり、自分らでものをつくったりするやつをすべて賄っていただくというようなことは、当初から考えてないです。5,000円で全員の食事を賄うというような考え方は、当初から思っておりません。

ただ、昼食ありということは、午前と午後に分かれてする事業で、かなり長期になってくる、時間が長くなってくると。その中でいろんな事業をなされるので、それの自分らのいろんなそのほかのものも要ってくるという形の中で、この2,000円と5,000円の差が出てきたとは聞いております。

そやから、はじめから給食費に対する補助として5,000円というのが対象にはしていない。基本的には食べるものについては自分たちで出していただくという、基本的に今まで運営なされているということでございます。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）私の認識と大分違って

いるんですが、ちょっとこれ、あまり突っ込んで言うと何か悪い方向へ行政が改善してしまうという、私は住民票手数料の件で、いわゆるやぶへびになっちゃう場合があるので、そのことを覚悟してここはいきます。

それは確かに１回の食事に300円とか負担をしているサロンもあるんですよ。１回の食事に300円。一方、現実に１円の負担もないサロンもあるんですよ。こんなん紹介したら、ここお金取れみたいに、こんなこと一番言いたい質問ではないんですが、実態としてあるんですよ。しかし、そうならざるを得ないという現実があると思うんですよ。ある程度わからんでもないんよ。部長言うように、自分で食べるものは自分でお金を負担しなさいということであれば、それで一貫してやれればいいんだが、はっきり言うたら、例えば国民年金で生活している方の多いサロンとかの場合、僕、今回質問にあたってそれぞれ地域、三つほど見せてもらったんですけど、結論としては、これはやはりどうしても不公平という、特に会員の多いと言いますか、参加者の多いサロンのほう、結局は負担がかかっていると。食事に対する負担についても、実態としてやはり金額も大きく、大きな金額が参加者に負担になっているという。これはやはり問題だというふうに私が認識したので、今回取り上げているわけですけれども、部長、このままでいいということなんでしょうか。再度伺います。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）その点も含めまして、やぶへびになるかわかりませんという、議員から言われておることも含めまして、このサロンというのは本市といたしましても、介護予防の一環として、これから各全地域に進めていきたい一つの事業でございますので、広めていきたいと思っております。先ほども人数の格差、回数の格差、いろいろ出ているのが事実でございます。その点も含めまして、答弁にもさせていただいたとおり、各かかわっていただいた方にアンケートもとり、その集約はまだしておりませんけども、21年中にはそれをどないしていくんなと。今ご指摘いただいた5,000円の件、当然2,000円の件も含めまして、どないしていくんなという、その一つ低いところを上げたら高いところが下がると、全体的な予算につきましても、ある程度は増額していただきたいなというのは、担当の部からのあれもあるんですけども、それもそないいっぺんには、これから増やしていく中では、一つのクラブが増えたことによっての増額というのは自然増でわかるんですけど、全体に例えば1,000円なり2,000円を増やしたら、全体的にはかなり多くなってくるので、そこらも含めまして今実際に検討やっている最中でございます。アンケートもとって。そういうことですのでご理解をいただきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）いい方法はあるんですよ。どこからも喜ばれる。いい方法ってあるんですよ。あるというのは、現在支給されている額を変えないのを基本にするのよ。そして、会員の多い、参加者の多いところを上げればいいんやしょ。補助金全体の枠というんか、これを広げるというのが一番ベストだと思うんですよ。これはやぶへびにもならないからね。この点、どうですか。最初もしつこく言いませんけど、このサロンの意義は極めて大きいんだから、こうしたところで思い切って補助金を増額、全体の枠ですよ。増額していくというのは、何といっても皆さんボランティアなんですから。ボランティアによって賄われているんですから。これは本当に、市長の大好きなボランティアの皆さんによっ

て、27箇所ですよ。何百人という方がかかわって、この事業をやっているんですよ。これ、どうですか。ちょっと責任ある人。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）基本的には見直しをしようとすれば、現在の額より増えてまいります。それを基本として考えておりますけれども、多分、富岡議員もご存じないサロンだと思うんですけれども、うちのこの規定から外れる、月１回、対象者50人以上の方を、地域の人たちがサロンとして開いている地域もあります。残念ながら、その要項には該当しませんので、市からの補助金は現在は出させていただけてありませんけれども、そういったところからの、補助金をほかのところみたいに少しでもいただきたいよという声もいただいておりますので、そういったサロンも含めまして、もう一度、市として格差の小さくなるようなことを基本に検討してまいりたいと、このように思っております。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）副市長、そう言ってくれたので、ただ副市長にやぶへびになったという、それ、非常に強いんです。ですから、今おっしゃっていただいたことを忘れないようにしていただいて、補助金の絶対枠をやはり増やしていくんだという立場で、いわゆる補助金、補助金と呼んでいますが助成金だそうですが、これについて、どなたも本当にご苦労いただいてますので、納得いくそうした助成金へと改善をしていただくことを強く求めておきます。

次に、３項目めの質問、橋本市営住宅ストック総合活用計画の３番に行きます。③真土住宅の計画について、もう少し詳しい説明をいただけますか。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）詳しいといいますと、先ほど答弁させてもらったとおりで、棟の集約を兼ねて地元のほうに説明に入っております。その説明会を開催したにあたっては、いろんなご意見もいただいております。

まず、橋本市といたしましても、20年度の７月にこのストックの計画を作成し、経済建設委員会に報告をし、今年から事業実施に向かっております。最初の段階の説明会ですので、今後、数回重ねる中で住民との意見と意思疎通をしながら、ちょっとでも棟の集約に進めたいと思っております。

以上です。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）では、私のほうからもう少し詳しく計画について述べます。

真土住宅のいわゆる全戸数というのは120戸あるわけです。そのうち、現在の入居者は85戸なんです。これを10年後に入居戸数を60戸にするという計画ですよね。８月22日の説明会で、この計画を実行すべく、これは南北になっているんですが、南側の道路から右を２列、一棟に４戸あるんですが、それから左側については３列ですよね。そこに入居されている方、たしか23戸だと思うんですが、この23戸の皆さんに、逆に北側から順に空き部屋があるんです。これを改修して転居をお願いすると。10年かけてこれをやるという、この計画に間違いありませんか。

○議長（中西峰雄君）建設部長。

○建設部長（樽井豪男君）まず、10年をめどにしてということでやっておりますので、その10年というのは間違いございません。

○議長（中西峰雄君）３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君）数字上げたのを間違ってないか確認してるのよ。真土住宅って120戸あるやろう。現在の入居者というのが85戸や。それをいわゆる半分にしてしまって、60戸にするというんやろう。あとはもう廃止し

てしまうということやんか。10年後の話をしてるんやで。10年後の段階で。要するに、南側の入居者を北側へ順番に、２戸か３戸改修しながらそこに転居してもらうという話や。そして10年後には60戸と。違いますか。10年かけてやるという話だけじゃなしに、この戸数についても、こんな数字を出してるんじゃありませんか。

○議長（中西峰雄君） 建設部長。

○建設部長（樽井豪男君） まず、棟の集約団地にいたしましては、各団地別がございます。それが管理戸数が463戸ある中で、約279戸削減で184戸ということの棟の集約を行いたいと思っております。だから、真土だけがすべて半分にするとかということじゃなしに、今、真土住宅で空き家戸数が34戸あります。その中で、今言う地元にも説明した中で、空き家の戸数がどれだけ、どことどこと空いておるよという中で、それを踏み込めていくというのが計画の中でありまして、それが、ここが半分になるとかということではございません。各全体の団地の中で、そういうふうに削減ということで考えております。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） 数字ずっと上げた中で、一個間違うておったみたいやな。86戸現在入居しているということかな。

この８月22日の説明会に、僕も傍聴しておったんやけども、これ、こんな議会みたいにいかんのやな。順番にきれいに発言するとかということも、３人も４人もぶわっとこう、もうこんなんのめるかいみたいな感じで、ぶわっと言うてたわよ。それでもちょっと主な反対されている理由を整理してみたんやけど、一つは、年に二、三戸空き家を改修するんであれば、新しい入居者を募集せえというんでしょう。中の人が移動するんじゃなしに、新しく募集してという、これは一番多かったわ。それで、入居希望者はいくらでもあるんやという声、出てましたわな。

それから二つ目に、耐震を考えれば、なぜ建築年数の新しい棟を廃止をして、建築年数の古い棟を残す計画なのかと。ここらが主なもんや。うわわわ言うてるけど、よう聞いておったらそういう中身やったわな。これもそれぞれ、そのとおりというか、筋通った主張と違うんかなと僕は聞いていたんですが、こういう意見について、部長、どう考えますか。

○議長（中西峰雄君） 建設部長。

○建設部長（樽井豪男君） まず、なぜ募集しないのかという中で、私ども橋本市といたしましては、ストックの総合活用計画に基づいた中でご説明をさせていただいて、その中で、この団地につきましては募集していかない方向で説明をさせてもらっております。

なお、年度の新しい云々という中で、これは昭和39年から昭和44年の間に建設された建物でございまして、構造につきましては、簡易耐火構造で、壁がＰＣ板のコンクリート板でございます。屋根につきましては、私も若干認識、ちょっと最初と違ったんですけども、屋根につきましては木造の合掌づくりで、スレートぶきというのが、これは44年度まではすべて同じでございます。

なお、こういった耐震につきましては、ストックの活用、ストックのときにまず予備診断をやっております。その予備診断につきましては、簡易耐火構造の２階建て、特に昭和42年とかの建設の２階建ての簡易耐火構造でございますが、同じように壁式のＰＣ板で連結しておる建物でございます。こういったやつにつきましては、その結果、工法診断が必要ではないやろうというような結果が出ております。その中で、まず平屋建てにつきましては、やはり２階建てに比べまして、耐震的には非常に安全性が高いという判断の中で、

平屋建てについては最初の予備診断はしておりません。実質、同じように39年から44年ですけども、ＰＣ板の工場制作のものでございまして、壁が弱くなったとかということはないと思いますが、そういった仮に建物を、そこに入っていただくところを改修するにあたっては、やはり壁の状態、合掌の状態等を再度点検し、見極めた中で対処していきたいなとは思っております。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） 実は、私もこの前１年間ほどになりますか、真土住宅のボランティア修繕の一人として行かしてもらってるんです。そんな関係もありまして、住宅に入居されている関係の方から２件、いわばお二人から、この住宅にたくさん空き家あるんやから、入らしてもらえませんかというそんな相談を受けました。

お一人の方は、お母さんが、娘が下手をして妊娠したので結婚することになったと。だんなさんになる方の収入が安定していないということもあって、ぜひ低廉な家賃の住宅に入りたいんだという、そうした相談でしたし、またある方は、入居されている方のお友達が不幸にも離婚をされて、母子家庭になって生活が非常に大変なんですと。家賃の安いこの真土住宅に入居したいんですということで、いろいろ募集等を調べてみたんですが、３年前から真土住宅には全く入居募集をかけていないということがわかったんですが、入居されている皆さんが言われている、住宅でも高齢化になってきて、皆さんで側溝等の月１回掃除なんかやってるんですが、だんだん参加者も減ってくるという状況で、なかなか社会的なと言いますか、いろんなことで生活がうまく成り立ちにくくなっていると。一番希望されているのは、そうした比較的若い方たちがどんどん入居して来られるということを一番希望されてるんですよ。

もちろん、演壇からも申し上げましたけれども、この社会現象との関連からも、こうした状況、いわゆる低廉な家賃の住宅に入りたいという、そうした市民もどんどん増えてくるというふうに思うんですが、この計画、真土住宅のいわゆるストック総合活用計画ですか、真土住宅版、これを見直す考えはないか、再度伺います。

○議長（中西峰雄君） 建設部長。

○建設部長（樽井豪男君） まず、今年度になってはじめて、そういったことで地元も入り、していっております。その中で、やはり５年後のめどの中で不都合があれば、また検討していくような格好では考えております。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君。

○３番（富岡清彦君） 押し問答になっちゃうので、一番言いたいことを言います。

基本的に最初の話に戻るんですが、いわゆる旧自民党政治。ここ最近、自・公政治というのが進めてきた自治体の仕事というのを、何でもかんでもと言うたら言い過ぎやけど、民間に任せるという方向や。この方針を受けて、この政治の一環として、この市営住宅の問題もあるというふうに私は考えます。長く続いてきた自民党政治、あるいは最近の自・公政治というのはもう終わったんやから、国の方針を、今までどおり絶対やということにするのではなくて、自治体が独自に考えて、市民が主人公という、本当に市民が主人公の立場で、市民のためになると、あるいは市民から歓迎されるという、こういう施策を実施する時代に私は入ったんだと。また、21世紀、そういう方向にぜひとも持っていっていただきたいんですよ。いかがでしょうか。もうこれで終わりますが。

○議長（中西峰雄君） ３番　富岡君の質問に対する答弁を求めます。

副市長。

○副市長（清原雅代君）何せ、うちは不交付団体ではありませんので、やはり国に頼りながら行政をしていかざるを得ないところがございます。国の状況も踏まえて、今後取り組んでまいりたいと思います。

○議長（中西峰雄君）これをもって３番　富岡君の一般質問は終わりました。

この際、４時15分まで休憩いたします。

（午後４時５分　休憩）